



議会だより



真冬のスカイランタン
令和3年 第3回 時折雪フォトコンテスト
大蔵村観光協会会長賞 作品
(SAWA CAMERA 氏撮影)

もくじ

年頭のあいさつ	2P
12月定例会	3P
一般質問	4~11P
産業建設常任委員会報告	12P
編集部特集	13P
ブレイクタイム	14P

風水にふれる里

第 **130** 号

2022.新春

発行／
〒996-0212 山形県最上郡大蔵村大字清水2528番地
大蔵村議会 0233-75-2111
編集／議会広報常任委員会 年4回発行
発行責任者／議長 鈴木君徳
印刷／共栄印刷株式会社

年頭のごあいさつ



新年あけましておめでとうございます。新年を御家族お揃いで
お迎えのこととお慶び申し上げます。
本村議会活動におきまして、日頃より格別のご支援と御協力を
賜り厚く御礼申し上げます。

本も世界も大変な危機に見舞われました。犠牲になられた方々には心より御見舞い申し上げます。
さて、村の基幹産業である稲作においては、天候にも恵まれ平年並みに確保されたものの、
米価の大幅下落という事態になりました。対応については、村でも考えている所です。園芸
作物においては平年並みで販売された事は唯一の救いとなりました。

今後も地方財政はより一層厳しさを増すことになると思います。農業・産業振興・少子化
対策・観光産業・人口減少抑制・高齢化の状況等、様々な問題、課題に対処、努力して参り
たいと思います。

昨年は、コロナの影響で議会改革も議会報告会等もできず残念に思っています。新しい生
活様式、withコロナで今の現状を乗り切り、今まで出来なかった事をやっていけたらと
思います。

二〇二二年 壬（みずのえ）寅年。「陽気を孕み、春の胎動を助く」という事から冬が厳
しいほど春の芽吹きは生命力に溢れ、華々しく生まれる年になると言われています。コロナ
が収束し、良い年になる事、村民の皆様には幸多き明るい一年になります様、心から御祈念申
し上げ年頭のごあいさつと致します。

議長 鈴木君徳

本年もよろしく
お願いいたします。

議長 鈴木 君徳
副議長 海藤 邦夫
議員 長南 正一

〃 八鍬 信一
〃 矢口 智
〃 佐藤 勝
〃 加藤 忠己
〃 早坂 民奈
〃 佐藤 雅之
〃 齊藤 光雄



◎大蔵中大規模改修年度内完成へ！

12月定例会



12月定例会が9日から10日にかけて開催され、令和3年
度補正予算6議案を含め、16議案を審議・可決。その他
議員発議が1件。請願が1件。
一般質問では7人が山間地域集落維持、防災情報タブレ
ットの活用法等に関して村当局の考えをいただきました。

条例等の改正



- ◆ 過疎地域固定資産税課税免除条例の設定
(過疎地域の発展を支援する国の特別措置法の施行に伴うもの)
- ◆ 大蔵村税条例の一部改正
(地方税法の一部改正に伴う、税額控除の一部改正)
- ◆ 大蔵村民健康保険条例の一部改正2件
(国の税法、健康保険法の改正に伴う、税額の軽減措置)
- ◆ 大蔵村生産物直売所の設置及び管理に関する条例の廃止
(施設の老朽化により解体したため、条例を廃止するもの)
- ◆ 大蔵中学校長寿命化改修工事の契約の一部変更
(各種配管等の交換等工事内容の見直しのため)

令和3年度補正予算

★令和3年度補正予算6議案を審議・可決
(ふるさと納税額の増、コロナワクチン追加接種、米価下落への
支援、災害復旧等)

議員発議

● 議会委員会条例の一部改正
(広報調査特別委員会を常任委員会に改正するもの)

請願の審査

「村道熊高・桂線、熊高地内の道路整備に関する請願」
・ 請願者 熊高地区自治会代表 矢口智
・ 審査結果 『採択』
国道接続部から集落内の道路は幅員3m程と対面通行が困
難で、冬期間はより狭くなり生活に大きな支障となっている
ことを考慮し整備が必要と判断。採択としました。

臨時議会

- 〈R3・10・15〉
- ・ インフルエンザへの対応
 - ・ 除雪機械の購入
 - ・ カルデア温泉館の改修
 - ・ 大蔵小中学校電子黒板の導入
- 〈R3・11・30〉
- ・ 診療所の内視鏡更新
 - ・ 大蔵中学校改修工事の予算追加



ここが知りたい 村政を問う

一般質問
12月
定例議会



一般質問とは？

村政全般に対し議員が質問し、意見を述べ村政をただしていくもので、大蔵村では1議員の持ち時間が45分です。

※昨年11月、全面舗装された葉山のR458号を視察する。

7議員が一般質問

5P 佐藤 勝 議員

○山間地域の現状をどう見る？

6P 加藤 忠己 議員

○農業機械の導入に補助金を
○来年度の予算編成について

7P 長南 正一 議員

○古水川流域の治山治水対策の要望について

8P 八鍬 信一 議員

○県道「大石田畑線」作の巻地内の道路改良
○村道及び村有施設敷地内水路の改修

9P 佐藤 雅之 議員

○村も「創業支援」の取り組みを
○村指定ゴミ袋のレイアウトについて

10P 早坂 民奈 議員

○タブレットの利用状況と今後の活用は

11P 海藤 邦夫 議員

○清水、合海地区最上川堤防は大丈夫か
○内水対策としての排水ポンプ場の計画は



佐藤 勝 議員

山間地域集落の 現状をどう見るか 村長 人口減少等の課題は一朝一夕ではなく地道に

問1 村内には集落の維持はもちろん、消滅の危機に直面している集落が多く、予想をはるかに超えた速度で現実味を帯びている。家庭の維持さえ難しくなっている。具体的な議論がないまま全く進展がない。時の流れに任せるのではなく対策が必要。集落を守るために頑張っている若者もいる。支援が必要ではないか。減るのは住民、増えるのは空き家と耕作放棄地という

答1 現実を村長はどう見ているのか。

全国的な人口減少の中、県内の市町村全体が同様の傾向にあり、対策が急務。中山間地域の農業についても担い手不足が集落維持に直結している。村の現状も家の新築や子供、孫の進学タイミングで、世帯の転出や後継者世代の転出などで核家族化し、年齢を重ね体力的に生活が難しくなった時に転出する話も耳にする。人口流出で空き家の増加や集落の高齢化が集落の衰退に拍車をかけている。空き家、耕作放棄地なども大きな課題となっている。都市部との格差是正といった観点から、条件不利を是正して、一定の生活水準を確保するため道路や交通手段、情報等の生活基盤などの対策を重点に行ってきた。決して世の流れに任せ、看過してきたものではない。しかし、過疎化に歯止めをかけられなかったのも事実。まず、住民が主導して集落の将来像について考え、一番身近な村として、集落のあり方について、地域の方と共に考えていきたい。

若者に対する支援と育成が必要とご意見。村としても、農業後継者自立支援条例を制定し各種支援策を実施している。時代に合わせた改正も視野に、必要な支援を的確に行う。人口減少、高齢化、集落の維持などの課題は、一朝一夕に解決できる課題ではない。過疎対策事業債などの国の施策を活用し、地道に取り組む。

問2 限界集落・空き家・集合住宅建設・耕作放棄地などの問題は進展がない一方で庁舎の移転、新規道路や基盤整備などは進展している。施策に該当しない地域の将来はどうなるのか。

答2 政治は住民の幸せ、安心、安全のためにあり、上だけを見てやっているのではなく、「弱い立場」の人を何とかしたいという思いでやっている。村全体の生活水準を等しい程度の「ライン」まで引き上げたいという思いでやっている。



増える空き家



増える耕作放棄地



加藤 忠己 議員

農業機械の導入に補助金を 村長 平場は他の補助事業の活用も

問 「山間地域等農業機械導入支援事業費補助金」は、これまで山間地は機械や設備の更新に補助金がなく、現在使用している機械が使用できなくなったら「米農家をやる」という考えの人が多く、棚田を維持・保全するには行政の支援が必要であるとの理由でできた補助金制度。原則村の塩地区より南部地域に限定されている。

答 村内においては、各地区で農地の基盤整備事業が順調に実施され、並行して農地の集積集約化、法人化が進み、稲作を主体とした大規模な営農が始まっている。今後、10年で300haを超える平場の大部分で基盤整備が完了する。一方、山間地域では、傾斜地を多く抱え、平場に比べ営農条件は極めて不利な状況。国や県の農業機械導入の補助事業を活用することは難しく、このような状況を少しでも改善したいとの思いから、村独自で山間地域のみを対象に限定した農業機械導入補助事業を創設した。地域の特性や実情を配慮したうえで創設した事業であり、補助要件については毎年現状を確認しながら対象作物や対象地区について必要な見直しを行ってきたが、適用範囲を村内全域に拡大することは本事業の趣旨からかけ離れると考える。国の補助要件を満たせない小規模の農家、新規就農者、集落やグループ単位での共同利用機械の導入や経営継承に必要な経営基盤の強化のための新たな補助事業も令和3年度から県と村が協調して実施している。農業所得等の補助要件はあるが利用いただきたい。

来年度の予算編成の重点施策は 村長 通常の生活を取り戻す 施策を第一に

問1 コロナ禍での重点施策は？

答1 コロナ禍後の村民の方々が安心して通常の生活を取り戻すため3回目の予防損取・子育て支援等の充実を検討していく。

問2 コロナの影響を受けた事業主、村民への経済対策は？

答2 現在実施中の誘客事業、冬季イベント等の効果を検証し、国、県との連携により感染状況を注視しながら対策を行う。

問3 地方交付税及び税収の見通しは？

答3 地方交付税・固定資産税等、多少の増減はあるが、全体として本年度とほぼ同額の収入見込み。



長南 正一 議員

古水川流域の治山治水対策を 村長 森林管理局に積極的・継続的に要望

問1 近年頻繁に起きる豪雨や豪雪による古水川流域の治山治水に非常に深刻な状態に陥っており、とりわけこの流域より農業用水を取水する3集落にとっては死活問題であり、その一番上流で取水している豊牧地区は耕地面積が50haに及び、しかも全面積がこの取水場1箇所に頼らざるを得ない状況です。

豪雨の度に水路担当者が取水場に走り対応し、おびただしい量の土砂の流出があり、一瞬にして取水場が埋まってしまう状態の繰り返しに悩まされており、これ程まで頻繁に起こる土砂の流出を食い止める手立てについては是非村の要望として関係する官公庁に現状とその対策について強力に訴えて頂きたい。

高齢化が進む中で耕作者の確保と日本一の棚田を守るためにも古水川流域の土砂の流出を食い止める対策工事の要望について村長の考えを伺う。

答1 度重なる豪雨や融雪による増水で、取水場の土砂撤去には大変な労力を費やし難儀されていることは承知しており、このような大規模な事業は村として実施することは困難であり、今後とも、林野庁東北森林管理局、山形森林管理署最上支署との関係を密にし、要望を継続的・積極的に行う。

また、大規模な砂防ダムの建設は治山事業では実施できないことから、恒久的な対策についても、県や国の砂防事業の可能性についても探っていく。

問2 地すべり指定区域外の上流部にある、取水場付近の対策工事を強く要望してほしい。

答2 現在行われている森林管理局の治山事業では、ダム建設は管轄外であり、住民の熱い要望と共に役場も積極的に関係機関への要望活動を行う。



被害の止まない取水場





八鍬 信一 議員

「大石田畑線」作の巻地内の道路改良 村長 ルート変更も提案し強く要望

問 県道「大石田畑線」作の巻地内の新庄市畑地区に通じる道路は、幅員が狭くカーブが続き、冬期間においてはスリップ事故や接触事故が多発している。過去に拡幅整備を計画したが、用地収用に問題があり取り止めになっている。そこで、未整備部分から新庄市に入る上り坂まで、田圃上を直線に盛土しての道路新設が最良策かと思う。通行する全ての人々の安全を守るため、早急な道路改良を検討するべきである。

答 当該道路は幅員3m程と狭くカーブが連続し、冬期間の通行は非常に危険な状況となっている。県では当初、現状道路を拡幅整備する予定でしたが一部相続登記未了地があり用地買収が進んでいない。ご意見とおり、現道北側の休耕地にルートを変更すると道路線形も良好になり山林崩壊等の土砂災害もなくなる。ルートの変更も提案し、引き続き県に強く要望していきたい。

村道水路の改修と清掃 村長 通水可能により協議し改修 教育長 環境整備と清掃実施

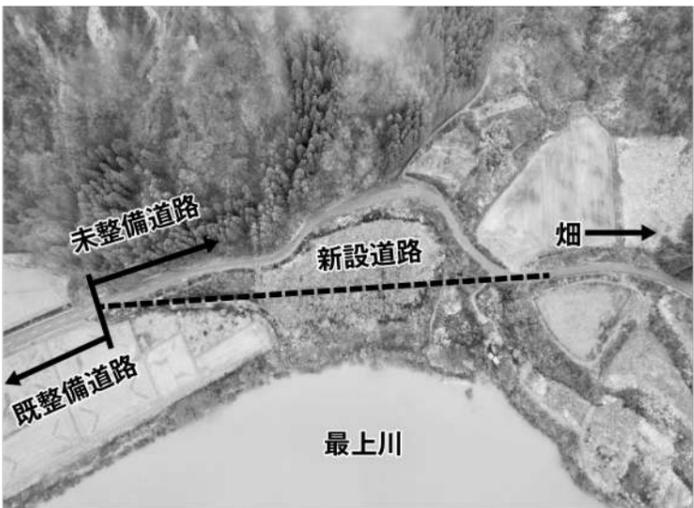
問 村道「赤松学校西線」の路肩水路、及び赤松生涯学習センター駐車場サイドの水路については、常時水が流れていないため、下水臭や泥溜まりがあり大変不衛生である。

答 過去数年、地区自治会で泥上げ清掃をやってきた。道路改修以前は県道水路より通水していたが、改修後に閉鎖されたとの事。以前のように水を流し、清掃作業の簡便化と、通行利用者への不快感を与えない事など衛生面の改善を図る事が急務とされる。

答 水路の改修と、現在滞っている清掃についても、道路管理者・学習センター管理者として早急に対応するべきと思う。

況であった。当時は県道水路より分水し、村道側溝に流していたものと思われる。水路の改修については、

県道水路から村道側溝へ通水することは可能であり、分水構造と維持管理など地域と協議し改修したい。教育長 生涯学習センター駐車場と畑間の側溝についても、調査したところ土砂が堆積している。施設周辺の環境整備に努め、水路の清掃も実施する。



作の巻地内 県道改良図



佐藤 雅之 議員

村も「創業支援」の取り組みを 村長 今後の状況を見極めつつ検討

問1 コロナ後やデジタル化、脱炭素の流れを踏まえ、次世代の「新規事業」や「創業」の支援を地方でも官民が、知恵と力を注ぐべきではないか。国は、産業競争力強化法に基づき、創業等支援事業者と自治体が連携して、事業計画を策定し認定を受ければ、ワンストップ（1ヶ所）で支援が可能。令和3年6月現在、全国の8割の地方自治体が計画認定を受け支援を行っている。

村内では、農業分野でも法人化を見据えた創業の機運を感じる。村として商工会なども連携した「創業支援」の考えがあるか。

答1 「創業支援等事業計画」の策定については、地域における創業の促進を目的に、国の認定を受け創業に必要な経費の補助や無担保信用保証等の支援が受けられる。しかし、現在は、村は「創業支援等事業計画」の策定は行っていない。村では、独自に「小規模事業

者持続化補助金」の創設により、既存事業者の需要の変化に応じた持続的な経営に向けた取り組みを支援している。

問2 既存事業の支援と合わせて、新規事業の掘り起こし、起業家の育成が大事ではないか。

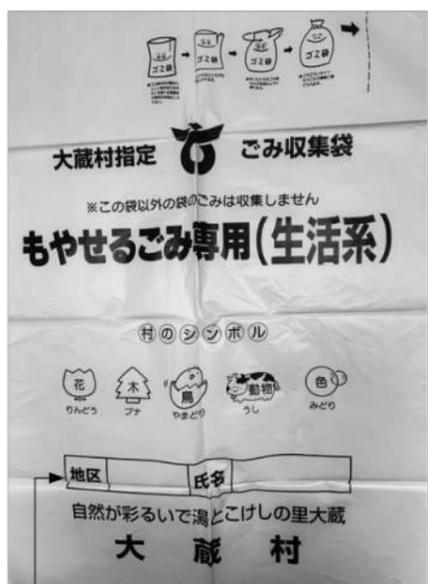
答2 新型コロナによる生活スタイルの変化に伴い、新たな産業やデジタル関連ビジネスの重要性が再認識された。新たなニーズや価値観、生活様式は感染症の収束後も定着することが予想される。村内で、新たな創業は難しい現状と認識しているが、「創業支援等事業計画」を含め、創業支援策は今後の状況を見極めつつ検討したい。

ごみ袋のレイアウトの工夫を 村長 より環境負荷の少ないごみ袋の導入時に検討

問 村指定の家庭用ごみ袋について、何人かの方から、地区名と氏名を記入する欄が、販売時に折りたたまれた「折り目」に重なるために「書きづらく不便」との声が寄せられている。日々のストレスにもなっている。レイアウトの位置を変更できないか。

お、現在使用しているごみ袋は、石油資源から作られた低密度ポリエチレン製。環境への負荷が大きい。製造コストは上昇するが、環境への負荷が少ないバイオマスプラスチックを使用したごみ袋の導入も検討している。

答 今後、指定ごみ袋を作成する段階で検討する。な



この折り目で地区名、氏名が書きにくい。





早坂 民奈 議員

タブレットの利用状況と今後の活用は 村長 活用して頂くためにフォローに努める

問1 タブレットが設置されてだいぶ経つが利用状況はどうか。高齢者の世帯が優先され、使用方法も説明を受けているが大丈夫か。その後のフォローはどうしているのか。また、導入する際の説明では安否確認、コロナ過の配布物の代替えの利用とも聞いている。高齢者やパソコンが苦手な人は情報をタブレットから得るのは難しいと思われる。今後タブレットからの情報共有は時代に沿った有効な事であり、積極的に活用してもらうにはフォローが重要である。宝の持ち腐れにならないためにも、どう考えているのか。

答1 現在の利用状況については、令和2年2月から65歳以上で構成される高齢者世帯に優先的に配布を開始。一般世帯へは本年9月にタブレット本体の購入を完了し、12月24日までに順次配布作業を完了する予定。共有は時代に沿った有効な事であり、積極的に活用してもらうにはフォローが重要である。宝の持ち腐れにならないためにも、どう考えているのか。

12月2日現在約63%の世帯が利用している。今後は受信状況を把握しながら、有効に活用して頂けるよう対応する。使用方法は電源を投入しWiFiに繋がれば通知が届く。村HPやハザードマップの閲覧も、アプリ内の資料集からリンクし情報を閲覧できる。配布時に簡単な説明資料と委託業者による説明を行っている。操作に関する苦情や問い合わせは少ない。誤った操作による機器の故障や不具合は発生しているが担当職員と保守管理業者で対応。操作が苦手な高齢者への対応はサロンや老人クラブ等の集会の場をお借りしながら対応する。また、10月1日付で「防災行政無線システム活用検討委員会」を設置。住民に対する情報の速やかな伝達とペーパーレス化及び地域の活性化を図ることを目標に議論し、活用に活かす。

問2 WiFi環境の無い家庭や安否確認等はどうか。

答2 65歳以上はカードが入っているのが無料だが、以下の方には環境を整えて頂くかカードの購入が必要。65歳になると無料になる。またグループ事にメッセージが送れるので安否確認等も可能であり、その他多くの活用が出来る。



海藤 邦夫 議員

清水・合海地区最上川堤防は 大丈夫か 村長 関係機関に要望活動を行う

問 昨年7月の豪雨災害は、50年、100年に一度という災害に見舞われた。最上川が氾濫し白須賀地区においては一般家屋やJA等が甚大な被害を受けた。今後このような最上川の氾濫がいつ起きてもおかしくない時勢である。清水・合海地区の堤防が越水する可能性が考えられる。堤防が越水し決壊すればその被害は計り知れない。現在ある堤防をより嵩上げし、今後起こりえる災害を未然に防ぐためにも

答 清水堤防だけを嵩上げすれば良いということでは無く、最上川流域全体を整備していくことが必要であると考える。

村として「最上川中流・上流緊急治水対策プロジェクト」の進捗状況や、年々激甚化する洪水被害の状況を見ながら、清水堤防の嵩上げ、補強対策などを国土交通省及び関係機関に対し要望活動を行って行く。

内水対策としての 排水ポンプ場の計画は 村長 排水ポンプ車を最大限活用

問 昨年の豪雨で合海地区では内水被害が発生し農作物が冠水、トマトや稲作等に被害が及んだ。内水といっても烏川向かいの清水堰のトンネルの入り口と考えられる。内水は最上川の水位が下がらないと放出されず、溜まったままである。子育て支援住宅「どんぐり」や、昨年団地造成した住宅にも被害が及ぶ可能性もできてきて被害が広がると考えられる。排水ポンプ場の設置を強く要望する。

答2 清水堰のトンネル入り口を応急的に封鎖することは可能であるが、清水堰は清水合海地区の農業用水や防火用水にも利用されており、トンネル入り口の封鎖の有無等については各組合の意向を考慮

し対応を検討。内水対策は、基本的には当該自治体で対応する。常設の排水機場の整備は莫大な事業費が必要で、財政的にも本村単独で排水機場を設置することは困難で、国土交通省や関係機関に要望済みで、排水ポンプ車を多面的かつ機動力を最大限生かした活用で対応して行く。



河川浚渫工事 (写真はイメージです)

編集部特集

今年も大蔵中学校で「美しい村プロジェクト」が開催されました

中学生の提案を活かして+プラス

12月3日に令和3年度の発表が行われました。

昨年と同じテーマはバージョンアップしており、新たな提案は、心誘われるようなとても素晴らしい事例でした。提案が実現するにはまだまだ工夫、調査等が必要ですが、中学生の柔軟な考えが今まさに、村にとって必要な課題ではと考えさせられました。



美しい村プロジェクト 2021

第4次大蔵村総合計画の施策の柱 **みらい まち なりわい ひと 暮らし** → 「まち」「なりわい」

全校共通テーマ 「持続可能な村づくりを考える」

～30年後も「美しい村」であるために～

SDGs17のターゲット

4カテゴリに別れてテーマに迫ってきました

	大蔵産食材活用	大蔵PR	よりよい暮らし	大蔵の自然活用
ゴール	大蔵産食材を使った料理を地域の方とコラボして広める	私たちが大蔵村の魅力を発信し、村外の人に興味をもってもらう	大蔵村に住んでいるどの世代の人も無条件でよりよい暮らしを考え、提案していく	大蔵村の自然を利用して、新たな産業につなげる
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ◇トマト農家さんとコラボして大蔵産トマトを食材にした給食メニューを提案する ◇肘折温泉の女将さんとコラボして(今年の)弁当レシピを旅館で提供する料理にアレンジする 	<ul style="list-style-type: none"> □動画をつくってバズらせる □これまでのパンフレットをさらに改良し役場に提案、県外に発信する □消しゴムはんこを作り、それを活用し、村内外の人に興味を持ってもらう □体験ツアーを通して、大蔵村にしかない魅力を知ってもらう 	<ul style="list-style-type: none"> □地元の人に愛される古民家カフェを創る □全世代に愛される移動販売を県内外に伝えていく □大蔵村に入居条件が無条件のアパートを提供する 	<ul style="list-style-type: none"> □大蔵村にキャンプ場を作ることを提案する □大蔵村で養蜂を新しい産業にしていけるための提案をする □大蔵村を流れる川の水質調査し、水質の維持改善に取り組む

感想

毎年更新され続けているプロジェクト。今年も頑張った様子が伺えました。すべての発表を見ることはできませんでしたが、村の将来を考えた内容はとても興味深く、実現出来たらきっと住み良い村になることでしょう。村の魅力を活かしたキャンプ場、スタンプラリー、自然を生かした養蜂、特産物利用の新メニュー、居場所づくりの古民家カフェ、便利な移動販売車、村の魅力発信等々、これからも生徒たちの若い視点で、魅力ある故郷にするために、考えて欲しいものです。(早坂)

産業建設常任委員会報告

舟形大蔵戸沢間・道路整備促進期成同盟会事業 現地視察



舟形・長者原

11月5日 県、3町村関係者と現地視察を行いました。

舟形・大蔵間は、大蔵に直結した道路であり、舟形だけではなく大蔵村としても大いにに関わり、早期の整備を要望。大蔵村塩、戸沢村片倉間の道路は、災害時の道路として重要であり、こちらも整備が必要で重要な道路です。視察して感じたことは、大蔵村の県道は他の町村と比べると整備が進んでいるほうだが、隣接する町村と連携して要望していく事が重要課題だと痛感しました。(早坂委員長)

11月12日 商工会と意見交換会を実施

今まで、単体の組合、協会の話し合いは持ってきましたが、今回初めて商工会役員の皆さんと意見交換会を行いました。商工会ではコロナの影響で大変苦勞している会員のための国・県・村の補助金制度や、支援についての説明や報告があり、プレミアム商品券は多くの会員が喜んでおり「第2弾はすぐに完売した」とのこと。村担当課より、予算・決算委員会等で、説明を受けてはいましたが、小規模事業者持続化補助金や、経済対策申請などはより詳しく、分かり易い説明で、私たち議員が出来ることなど、意見の交換をしました。その中で、ふるさと納税の使い道がわからない「%で良いから知りたい」議員からは、以前作成した村の電話帳を新しく作っていただけないかの意見が出ました。



商工会会議室にて

- *ふるさと納税の使い道は議会だよりにてお知らせする。
- *電話帳は青年部で作ったが、会員の減少と個人情報の法律により、今後作成するのは難しい。

令和2年度 ふるさと納税の使い道

使い道	合計/寄付金額	割合	件数
(1)村政一般への活用	39,188,500	40.0%	1,462
(2)明日を担う子ども達の教育への活用	30,822,100	31.4%	1,109
(3)環境や景観の保全への活用	8,100,500	8.3%	343
(4)安全安心な村づくりへの活用	3,213,000	3.3%	143
(5)ふるさと産業の振興への活用	9,775,000	10.0%	434
(6)その他	1,873,500	1.9%	78
(7)その他(R2・豪雨)	5,014,500	5.1%	747
総計	97,987,100	100%	4,316

ブレイクタイム



令和3年を象徴する漢字が『金』と言うけど…
実に不安な、落ち着かない…
一言で言い表せない複雑な一年でした



県内各地で霜被害

春の不順な天候により、県内で霜被害が起き、果樹を中心に露地野菜まで大きな被害となっていました。夏のサクランボ大凶作は大きな衝撃となって報道されました。

史上初、集団接種

コロナワクチンの集団接種が4月から行われました。おそらく生まれて初めて、村内の、地域の人達と一会場で。マスク着用、無言・沈黙。異次元の時間を体験しました。



災害と無縁の暑い夏

令和2年夏の集中豪雨の記憶が強烈に残っていますが、一転して令和3年の夏はおだやかで気温も高く、久しぶりに夏らしい日々を過ごすことが出来ました。

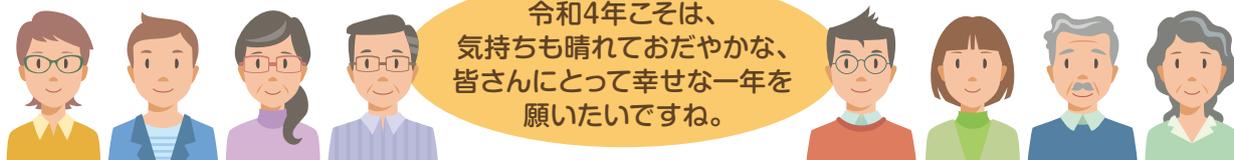
豊作…一転、米価下落

コロナや天候不順など春からの不安な時を過ぎて、農家の皆さんの献身的な努力が実り、稲の作柄良好との報道がテレビやラジオでも。そして、間もなく米価大下落との報せ。

農協関係から緊急の農家支援の請願が議会に提出され、国へ意見書を届けたものの米価への直接支援は無く、米農家への継続支援金4000円/10aのみで、大変厳しいものとなってしまいました。



令和4年こそは、
気持ちも晴れておだやかな、
皆さんにとって幸せな一年を
願いたいですね。



議会広報 常任委員会

委員	委員	副委員長	委員長
齊藤光雄	早坂民奈	佐藤雅之	矢口智

年が明けて、二〇二二年がスタートした。私ごとながら、今年で早、五〇歳となる。「人間五〇年下天の内をくらぶれば、夢幻の如くなり」とは、織田信長が舞ったとされる幸若舞「敦盛」あつもりの一節。

それにしても、年を重ねるたびに一年が本当に短く感じる。この感覚は、多くの人が感じているようで、何か「法則」のようなものを探さべくネットに検索ワードを打ち込んでググって見た。すると、「人生のある時期に感じる時間の長さは年齢の逆数に比例する」。

十九世紀フランスの哲学者、ポール・ジャナーの発案した「ジャナー法則」がヒットした。

この「法則」に当てはめると一〇〇歳まで生きた人でさえ、主観的な人生の体感時間は、一〇代後半から二〇歳で人生の半分に達するという。理由は、新しい刺激を得る子ども時代と比べ、経験に頼る高齢者は脳への刺激が少なからしい。脳への刺激が、時間感覚に影響を及ぼすとは。

そうだとすれば、これまでの経験や既存の価値観に固執せず、新しいものに挑戦することが、心の時間を長くする秘訣なのかも知れない。

この間、議会だよりの締め切りに追われて「時間が無い、時間がない」とあたふたして過ごしていた日々を反省しつつ。

(佐藤 雅之)

後書き